

## 黒竜江省寧安市でコウライアイサの繁殖を観察

李文発<sup>1</sup>・趙和生<sup>1</sup>・王恒根<sup>1</sup>・李方満<sup>2</sup>

1. 黒竜江八一農墾大学動物学技術院

2. 牡丹江師範学院生物系

訳 福井和二

1997年9月4日寧安市小北湖において全省の野生動物調査が行なわれたとき、32羽のコウライアイサ (*Mergus squamatus*) が発見された。9月24日～27日、ただちに現地に赴き調査し、写真を撮った。25日16時55分頃二人で数えたところ、総数76羽出会った。これは国の内外を問わず、今までにない最大の群である。1998年4月1日～25日には40～50羽が毎日確認された。

この種は世界において絶滅危惧種にランクされ、中国では国家一級保護鳥類に指定されている。主な繁殖地は、ロシア極東地区、中国東北地区の小興安嶺と長白山狭窄林区内で、総数は1200～1500対とされているが、毎年確実に数が減少している。

小北湖は長白山系張広才嶺の中腹で、82%が森林に覆われているところにあり、高山に閉ざされた、面積389hm<sup>2</sup>の湖である。火山により生じた地下森林や地下洞があることなど鏡泊湖と似た環境で、生物多様性の典型的な環境といえる。

コウライアイサは秋には、群れで行動し、午前中の多くは岸辺の草むらで採食し、13～14時頃には次第に集合し、大きな群れは小北湖北端のへんぴで静かな水草の多い場所に移り、18時頃までに逐次集合を終わる。雨天の場合には湖の群れは見られない。

群れの成鳥、幼鳥比、性比は群の大小によって明らかに差がある。大群では雄の成鳥が多く、気ままに遊泳し休息している。19羽中8羽が雄で、58羽中37羽が雄、おおむね1/2を占める。しかし、小群では11羽の群れに4羽の雄、10羽の群れにわずか2羽の雄、3羽の家族群では雄雌と幼鳥各1羽ずつであった。

コウライアイサとその繁殖地を保護するためには、繁殖の特性を理解し有効な保護方法を計画し、実行する根拠を保護区に提供する必要がある。繁殖期は漁業を禁止し、禁止区域を定め、小北湖周辺の山林、分水嶺までの森林、湖岸400m以内の樹木の伐採を禁止して、営巣場所の確保をしなければならない。